

ブッポウソウ *Eurystomus orientalis* (Linnaeus)

【選定理由】

1970年代以前の明確な繁殖記録が残されておらず、正式な繁殖記録は1995～98年、豊田市旭町での1箇所のみであった。その後2014年から松枯れの林でごく少数の繁殖が確認されているが、県内に僅かに残る成熟した松林の大半が枯れてしまえば、再び県内での繁殖が消滅する危機となる。現在県内では巣箱の設置で少しずつ効果は得られているが、安定するまでには至っていない。

【形態】

全長30cm。頭部は黒褐色、体は光沢のある青緑色で嘴と足は赤く、体色は雄の方が雌よりやや鮮やかである。幼鳥は嘴の赤が不鮮明で黒色の部分があり、羽の光沢も少ない。



愛知県豊田市, 2016年7月11日, 小林 学 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

西三河や東三河の山地に飛来するが、繁殖確認数はごく少ない。架設した巣箱による繁殖も、少しであるが成功するようになった。

【国内の分布】

夏鳥として本州、四国、九州などに飛来するが、西南諸島や北海道では希。

【世界の分布】

ロシア沿海地方、サハリン、中国東部および南部、朝鮮半島、日本、東南アジア、ニューギニアで繁殖する。北方で繁殖するものは、冬期南方に渡る。

【生息地の環境／生態的特性】

中部地方における繁殖環境は山間部の広葉樹林や針広混交林であり、営巣は社寺林の老齢木が主であった。1990年頃より河川やダムの橋のトラスで繁殖する例が見られるようになり、2014年からは枯れ松での営巣が確認されている。餌は主に昆虫で、飛びながら捕食する。通常は止まっている枝から飛び出して捕食するが、夕方ツバメのように上空を飛び廻りながら捕食することもある。声に特徴があり、ゲッ、ゲッ、あるいはゲゲーゲーゲー、などと鳴く。

【現在の生息状況／減少の要因】

記録が残されている1970年代以降では、新城市や豊田市、旧津具村などで、繁殖期やその前後の生息記録は何例かあるが、営巣が確認されたのは豊田市のダムの記録だけであった。近年松枯れ林にあるアオゲラの古巣で繁殖するようになり、県内では複数のペアが繁殖していると推測されるが、同一場所で継続して営巣している例はほとんど確認されていない。県内のアカマツ林は松枯れによる消滅が続いており、現在では末期的な状態にあることから、このまま何の手も施さなければ、近い将来本種の繁殖環境が消滅することは容易に推測される。

【保全上の留意点】

広島県や岡山県では電柱が木からコンクリートに替わる時に、木の電柱に穿たれたアオアカゲラの古巣で繁殖していたブッポウソウのため、巣箱の設置を実施して大きな効果が得られている。愛知県においては松枯れ木に代わる営巣場所として、2013年より巣箱の設置を実施している。

【特記事項】

小型の野鳥にも装着可能なジオロケータ（小型軽量で毎日の明暗を記憶する装置。再捕獲後の解析で装着された鳥がいつ、地球上のどの位置にいたかを解明することが可能となる）の装着により、広島で繁殖する本種がボルネオ島で越冬していることが解明されている（飯田知彦、私信）。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.109. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)